

生き延びた者の責務

— もうひとつの8月15日

理事長 長谷川 公 一

この震災で亡くなられた方のご冥福を祈るとともに、ご家族やご友人を亡くされた方の悲しみの深さはいかばかりかと思う。家や船を失い、あるいは仕事を失った方々も少なくないだろう。ふるさとや親しんだ光景の変わり果てた姿にがっくり力を落としておられる方も多だろう。

3月11日の大震災と津波被害を、幸い生き延びることのできた私たちには、生き延びた者としての責務があるのではないだろうか。

環境団体MELONにとっての責務は、みやぎの環境とくらしを守ることにほかならない。どうすれば、安全で安心なみやぎの環境とくらしを守ることができるのか、私たちに何ができるのか、会員のみならず、全力で考えていきたい。是非、ご意見をいただきたい。

福島第一原発の事故のあと、私たちが避けて通れないのは、原子力発電をどう考えるか、エネルギー政策をどう考えるか、という重い課題である。

1999年に発表した「原子力発電をめぐる日本の政治・経済・社会」という論文の中で、(原子力に批判的な運動が高揚するためには)「もう一つのチェルノブイリ」を待たねばならないのだろうか」と記したことがある。1996年に刊行した『脱原子力社会の選択』(新曜社刊)では、「阪神淡路大震災、もんじゅ事故を警鐘として(中略)今後着工予定のすべての原発建設計画を一時的に凍結し、あらためて21世紀の日本にふさわしいエネルギー

供給のあり方を根底から問い直すべきではないか」と提起した。私のささやかな警告は、今回の福島第一原発の事故によって不幸にも現実のものとなってしまった。

政府や電力会社は地震学者・石橋克彦氏らの「原発震災」の警告に、謙虚に耳を傾けるべきだった。

「原発震災」のリスクも、放射性廃棄物も、二酸化炭素も減らしていくためにはどうすればよいのか。

MELONはこれまででも、自然エネルギーの活用や節電・省エネルギーに力を入れてきたが、今後ますます、太陽光や木質バイオマスの活用などに取り組んでいきたい。

1945年8月15日がそうであったように、3月11日を境に、日本は生まれ変わらなければならない。ただ「がんばろう」ではない。必要なのは、「日本を変えよう」、「みやぎを変えよう」、「エネルギー政策を変えよう」ではないか。

東日本大震災と「原発震災」から社会全体が何を学ぶのか、私たちの知性と創造力と決断力が今こそ問われている。



石巻市門脇地区・南浜地区、4月13日長谷川撮影

MELONとは 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO(非政府組織)です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。
MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1. 理事長からのメッセージ
「生き延びた者の責務—もうひとつの8月15日」
- P2-3. ～東日本大震災を受けて～
MELONの取り組みと全国からの支援
- P4. MELONcafe企画部、活動しています！
かんきょう読み聞かせ
- P5. 協同組合のコーナー
50人リレートーク 門傳仁さん
- P6. ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7. MELON新プロジェクト始動！
緑と生きものプロジェクト
水部会 江合川プロジェクト
- P8. MELON総会のご案内、イベント一覧、
編集後記

東日本大震災に対する MELON の取り組み

私たち MELON 事務局は 3 月 11 日以来、何が出来るか何をすべきかを考えてきました。

物資の支援やボランティア派遣等は、多くの専門 NPO や災害ボランティア組織が対応しているため、今後 MELON としては復興に関する環境面からの支援を中心に検討していきます。まだ固まっていない活動もありますが、東日本大震災に対するこれまでの MELON の取り組みをご報告いたします。

1. 物資支援や状況把握等の活動

日付	内 容
4月2日(土)	ベガルタ仙台サポーター有志による物資支援への協力。MELON から物資を提供し、ユアスタでの仕訳作業に協力した。
4月5日(火)	気仙沼市訪問 気仙沼市で普段からお世話になっている地球温暖化防止活動推進員を訪ね、物資の支援と主な被災状況の確認を行った。
4月5日(火)	石巻市・避難所への協力 避難所で活動する地球温暖化防止活動推進員を訪ね、避難所や被災者の現状把握と今後の計画について聴取した。
4月6日(水)	震災ごみ置き場の視察 若林区、宮城野区の震災ごみ置き場を視察し状況把握。「震災ごみ」ではないと思われるものも多数含まれているため、ラジオ出演時に震災と関係のないごみを持ち込まないように呼びかけた。

2. 情報発信

ウェブサイトで宮城県内の空間放射線量率の変動をグラフで分かりやすく情報提供したり、また MELON ならではの「今だからこそ！使えるエコ」のページを新設するなど、情報発信を行っています。

3. 今後の活動予定

名 称	内 容
政策提言	宮城県が発表した「宮城県震災復興基本方針(素案)」に対し、MELON として今後の復興計画に反映させるための環境保全型の再生策の提言を行う。役員会、部会・プロジェクトの他、MELON-Net でも意見を募集し、まとめていく予定。
東日本大震災つながり・ぬくもりプロジェクトへの協力	環境エネルギー政策研究所 (ISEP) が寄附を募り、その寄附金によって被災地に太陽光発電システム、太陽熱温水器等を寄贈する本事業について、被災地とのマッチングの協力を行う予定。
間伐材等により製作された「組手仕」の寄贈事業への協力	国土緑化推進機構が「緑の募金」により、「組手仕(くでじゅう)」という組立キット(切り込みの入った木の棒を組み合わせて間仕切りや棚を作るもの)を寄贈する事業を行う。本事業を受ける登米森林組合と協力し、現場での制作指導等を行う予定。

現時点では発表できる段階にありませんが、この他にもいくつか他団体より活動協力のオファーがきており、可能性をさぐり検討しております。今後も MELON の資源をいかし、少しでも世の中に貢献できる事業協力をしていきたいと思っております。



宮城野区震災ごみ置き場の状況



ベガルタ仙台サポーターによる物資支援への提供物資



組みあがった組手仕の使用例

全国の仲間が宮城を応援しています！

おしみろみ

震災直後からたくさんの励ましや応援のメッセージをいただきました。ここでは宮城を応援している全国の仲間からの支援の一部を紹介します。ご支援くださった皆様、本当にありがとうございます。

①地球温暖化防止活動推進センターより

全国に51箇所ある地球温暖化防止活動推進センターでは、地球温暖化防止のために日々それぞれの地域で活動に取り組んでいます。震災後、全国地球温暖化防止活動推進センターの呼びかけのもとにたくさんのセンターがおむつなどの物資をご提供くださり、3月27日（日）に東京都の窓口を通して被災地に送られました。各地からのあたたかい支援の気持ちも一緒に宮城に届いたことと思います。

②ソーラーッキング友の会横浜ジャンパンより

神奈川県横浜市内で活動を進めるソーラーッキング友の会横浜ジャンパン様からはソーラーッカーをご提供いただき、被災された石巻市と気仙沼市の地球温



ソーラーッカー
(撮影：ソーラーッキング友の会横浜ジャンパン)

暖化防止活動推進員に届けられました。代表の押見史さんはご自身も推進員として活動をしていらっしゃる、「自然エネルギーの良さを体験し、感動して元気になってもらいたい」という願いが込められています。

気仙沼市の推進員菊地ひろ子さんは庭でじゃがいもを煮てみたところ、残念ながら途中で雨が降ったものの、温度が上がったお鍋を布でくるんで保温調理をしておいしい夕食のおみそ汁になったとのこと。「ソーラーッカーと保温調理で楽しくエコッキングができますね」とのコメントをいただきました。

太陽の恵みを受け、一人でも多くの人に笑顔が広まってほしいですね。



ジャガイモを煮ています
(撮影：菊地ひろ子さん)

震災時にも活躍！ 生ごみを堆肥化してごみを減量しませんか??

今回の大震災で地域のごみ回収拠点は山積みになり、ごみ出しに苦労された方は多いと思います。それは、食器類や家具等のいわゆる「震災ごみ」に加えて「プラ袋・容器類」が大量に出されたことと、収集車のガソリン不足や焼却施設が被災したことなどの理由でごみ収集の機能がパンクしたからです。

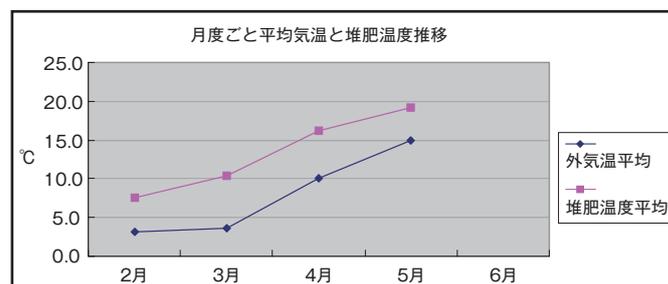
4R推進部会員と一般メンバー合わせて9人で「手動式生ごみ処理機使用実験」を開始してから3ヶ月経過しました。機種は「エコロポスト」、「ダスクリンくるくる」、「生ごみゼロ君」の3機種。今回の東北太平洋沖地震により中断を余儀なくされた方もいますが、段々暖かくなってきて順調に生ごみの分解が進むようになってきました。

実験参加者の1日平均の生ごみは195gですが、震災直後10日間の排出量は90gと半減しました。「震災直後はカップラーメンやお菓子類、レトルト食品などを食べたので生ごみは減りましたが逆にプラごみは増えました。堆肥化実験をしていたおかげでごみ出しが少なくて助かりました」と報告を受けました。

4R推進部会では、「ダンボール式の堆肥化」の普及にも力を入れています。これは、容器となる「ダンボール」や基材となる「オガクズや腐葉土」・「米ぬか」など費用も小額で、基本どおりにすれば虫の発生も防げますし、臭いもあまりでません。手動式もダンボール式も「電気を使わない」というところに特徴があり、小家族・マンション住まいの方に適しています。

4R推進部会では「生ごみの堆肥化」とともに、それを使った講座「目指せ！緑のカーテン」を6月18日（土）に開催します。生ごみを減らすため、堆肥化と活用を始めませんか。

実験機の堆肥の温度推移（2月1日～5月15日）



MELON cafe 企画部、活動しています！

環境に興味・関心のある市民が気軽に参加できる「MELON cafe プチ講座」や「出張MELON cafe」の内容を検討するために「MELON cafe 企画部」を2月24日に立ち上げました。

MELON cafe 企画部のメンバーは学生や主婦、社会人等とさまざまで、参加人数は現在13名です。「自分の趣味」や「興味のあること」「今、話題になっていること」を楽しくおしゃべりしながらアイデアを出しあっています。3月の例会では「米粉で簡単 かしわ餅作り」の試作を行いました。講師はメンバーの堤恵美子さんに務めていただき、分量や作り方などを検討しながら作成しました。この講座は4月に開催予定でしたが、残念ながら3月の



メンバー講師の堤さん

東日本大震災により中止となったため、レシピのみホームページで紹介しています。

また、東日本大震災の後には講座の見直しを行い、家庭でできる省エネルギーの内容に変更しました。

その講座は6月18日(土)「あると便利！エッグキャンドル作り☆」、7月9日(土)「保冷剤でひんやりハンドメイドスカーフ♪」です。

エッグキャンドル作りは、日ごろの節電対策や急な停電対策にオススメで、また6月22日(土)夏至の「100万人のキャンドルナイト」に向けての講座でもあります。保冷剤を使ったスカーフは、夏の猛暑のおでかけも涼やかで日焼け防止にもなり、室内で使えばエアコンの使用が抑えられ節電対策になります。使用する布地は参加者が使わなくなった布を持参します。

手軽に省エネグッズを作って、少しでも夏の電力不足を補いませんか？



かしわ餅の試作づくりをおこないました。

今後のMELONcafe プチ講座

6月18日(土) 13:30～14:30

「あると便利！エッグキャンドル作り☆」

場所：MELON事務局

7月9日(土) 13:30～14:30

「保冷剤でひんやり ハンドメイド スカーフ♪」

場所：MELON事務局



東北と物語と震災と

それぞれの個人や家族、そして地域で、あの地震からたくさんの物語が生まれていることをみなさんとの交わりの中で聞くことができます。そして、ほんとうに残念ながら、悲しい物語もいまだつきることはありません。

子どもたちに伝えたい「物語」を残していくために、いま起きている現実をしっかりと見定め、そしてたくさんの人と「今生きていること」について話し合っていくことが必要なのでしょう。

この2月、オーストラリアの洪水のことを本欄に書こうと思ってアイバン・サウスオール作、小野章訳「ヒルズ・エンド」(評論社、2009年)を読んでいたのですが、期せずして今回の震災と重なるところとなって、いまいちど読み直すことになりました。

さて、わが家の壁に掛かったオーストラリア製の

世界地図は私たちが見なれた地図とさかさまになっていて「NO LONGER DOWN UNDER」(もう「下」じゃないよ)と書いてあります。だから、洪水のあったクイーンズランド州を「オーストラリアの右上の方」といわないでおきましょう。

この州で1月に大洪水があつてたくさんの方が被害に遭われました。この本にはその災害の中で、取り残された子どもたちがどんな行動をし、どう困難に立ち向かっていったのかが丁寧に書かれています。大人になろうとする少し大きなおにいちゃん・おねえちゃんに読んでほしい。それより小さい子なら、テレビを消して、小さな光の中で、毎晩少しずつ読んであげてもいいかもしれません。子どもと大人の関係・大人の態度もまたしっかりと書かれていますよ。

わたしたちはいま、この震災によって「東北」に生きているということであらためて、深く考えることになったのではないのでしょうか。地震や冷害やたくさんの困難と隣り合わせで、それでもしぶとくこの地で暮らしてきたわたしたちは、これからは「東京の東北にある地域」の東北でなく、困難に立ち向かった、世界の中のTOHOKUに変わるかも知れないと、物語を読みながら、物語を作りながら思うのです。



各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

「夏の節電・節水」で震災復興を応援しよう！

東日本大震災の被害により夏場の電力不足や、下水浄化施設の被災で下水処理機能の低下が起きています。この「電力や水の危機」に対し、今までの「当たり前の生活」についてもう一度考え直し、みんなの知恵や工夫で「節電・節水」に取り組み、復興に必要な電気や水が滞らないようにしましょう。

みやぎ生協の「節電・節水チャレンジシート」は節電・節水ライフをサポートします。チャレンジシートはホームページからダウンロードすることもできます。また、「節電・節水」に関するブログを開設します。こちらも併せてご覧ください。

みやぎ生協 環境

検索

問い合わせ・連絡先

みやぎ生協生活文化部 暮らしの活動事務局
〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2
TEL : 022-378-8531 FAX : 022-218-5945



MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク



第36人目の執筆者

門傳 仁さん
(農業・林業 栗原市)

3月11日から2ヶ月、あの日以来、時間が止まったような感覚がある。内陸のため津波はなかったが、江戸末期に建てられた我が家は傾いて住めなくなった。一週間の避難所生活。避難者15人。200人ばかりの小さな集落。全員顔見知り。必要なものはみんなで持ち寄ってくれる。味噌、醤油、ろうそく、灯油、ストーブ、懐中電灯、米、野菜、食肉、毛布、乾電池、衣類、精米機、燃料、お菓子、日本酒、血圧計、体温計、大工さんは一人暮らしの高齢者の家の補修、看護師さんは健康管理、電気屋さんは発電機を配電盤に引き込み照明とテレビを点けた。病院には消防団が付き添い、市役所から次の日には物

資が届いた。女性たちは停電してご飯が炊けない家に炊き出しを続け、区長さんは市との連絡、部落会の会長さんは避難所の管理、民生委員さんは誰がどこにいるか所在の確認。家の中の片付けを手伝いに行った人もいた。若い子が黙って携帯の充電をしようとして諫められる。二回目からはちゃんと挨拶出来る。それぞれに自然に何となく出来る。避難所から集落のほとんどの家が見える。田んぼも山も見える。景観も含めて大きな家族のよう。みんなと離れこの風景が見えなければどんなに心細いだろう。自然に寄り添って生きるとは、こんな普通のことかも知れない。時間が止まったようでも良いのかも知れない。

… 次号執筆者紹介 …

福澤隼人さん
(環境保全米ネットワーク)



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.50

環境学習に取り組む小学校の先生方の交流会 『小学校の先生と温暖化の先生の環（わ）』開催

日時: 3月5日(土) 13:30～15:30
場所: フォレスト仙台 2階 第6会議室
内容: ①アイスブレイク
 ②行政の環境学習サポートについて
 ③環境学習プログラム・環境グッズの紹介
 ④交流タイム

ストップ温暖化センターみやぎでは2010年度、環境学習に取り組む小学校の先生を対象とした交流会を行ってきました。3回目の今回は環境学習プログラムやグッズの紹介がメインです。プログラムを紹介していただいた推進員グループの皆さんは、小中学校での環境学習の授業の経験が豊富です。「こんな授業を行いました」「アンケートの結果は…」と、これまで行ってきた授業の様子を交えながらの紹介に、先生方も「なるほど!」といった様子でした。

交流タイムでは、先生方と推進員の皆さんがそれぞれの立場から思うことや聞きたいことを出し合う意見交換を行いました。「小学校では温暖化についてどんな授業

を行っているの?」「地域性のある授業をしたい」などのたくさんの質問や意見が出され、交流会が終わった後もお話は止まりません。今回できたつながりを生かし、今後環境学習の機会が増えていくことを願っています。



プログラム紹介の様子

情報が豊富に! 『環境学習のページ』リニューアル

交流会では「ウェブサイトが最も情報を得やすい」という声をたくさんいただきました。その要望から、ストップ温暖化センターみやぎのホームページ内の「環境学習のページ」をリニューアルしました。新たに事例紹介とリンク集を追加しジャンル別に整理するなど、より詳しく見やすいページになっています。「環境学習について情報がほしい!」こんなときは、ぜひご覧下さい!

温暖化に立ち向かう高校生「気候チャンピオン」の近況報告!

昨年7月、宮城県の2つの高校が気候チャンピオンに任命され温暖化防止のための活動を行ってきました。あれから各校が取り組むプロジェクトはどのように進んでいるのでしょうか。近況取材しました。

■東北生活文化大学高等学校(仙台市)

昨年作ったペットボトルキャップのオブジェ「ペットボトルモンスター」を解体し、ポリオワクチン購入に寄付しました。今は校内や地域へキャップ回収を呼びかけるポスターを作っています。今後もキャップ回収を継続し、集めたキャップで新たなエコアート作品を作りたいです。

■宮城県農業高等学校(名取市)

LEDの光のみで育てた水菜と畑で育てた水菜を比較するため食品センターに分析を依頼しました。また、昨年12月に行われた「農業クラブ」県大会に出場し、プロジェクト部門で優秀賞を受賞。今年8月に行われる東北大会に出場が決定しています。

なお、宮城県農業高等学校は東日本大震災による津波でプロジェクトの要である植物工場が流されました。しか

し「また作り直し、復興の記録を残していきたい」と熱意ある様子でした。ストップ温暖化センターみやぎは今後も気候チャンピオンの皆さんをサポートしていきます!



巨大! 3mのペットボトルモンスター
(東北生活文化大学高等学校)



LEDの光で大きく成長した水菜
(宮城県農業高等学校)

4月から新しいスタッフが入りました!

<小山田陽奈(おやまだ はるな)>

「環境のために何をするべきなのだろう」、「自分には何ができるのだろう」と、常に考えながら活動していきたいと思っています。皆様どうぞよろしくお願ひいたします!!



新プロジェクト始動！

え あいがわ 江合川プロジェクト【水部会】

これまで水部会では、仙台市を中心に「水の神さまを探せ！プロジェクト」と題し、水にまつわる水神や不動尊、石碑などを調べてまとめてきました。人々がまつたそれらの水の神さまを調べることで、その地域の人と水の歴史や、過去の地域環境、水の大切さを知ることができるからです。

今回の震災では、水道が止まり、満足に水を得られない暮らしを体験した方も多くいます。これまで、水をまさに湯水のように使ってきたことを実感し、水のありがたみや、湧水や井戸のありがたみを感じたのではないのでしょうか。また、過去の地震や津波からの学びや昔からの言い伝えが活きた事例もあり、今一度地域の水にまつわる歴史をまとめることが需要だと考えています。

今年、水部会では「きれいな川と暮らそう基金」の助成を得て、江合川流域の水の神さまを地域の人たちと共に調べていくことになりました。江合川は、宮城県大崎市鳴子の奥、荒雄岳の水源から、石巻市の旧北上川に合流するまでの約80kmの一級河川です。広瀬川の約2倍の長さの江合川ですが、地域の方のインタビューを中心とした環境学習教材DVDを作ることを目標に調査を行っていきます。

先人が万感の思いをこめてまつた「水の神さま」を調べ、地域の方や子どもたちに伝えることを通して、先人の苦勞に想いをはせ、水を大切に作る心を育てることを目指していきます。



5月22日江合川流域「龍ノ口神社」調査

緑と生きものプロジェクト(仮)

これまで食・農・緑をテーマに活動を行ってきた「緑・食部会」ですが、2011年度は新たに、食と農の活動を行なう「食部会」と、森林や里山の活動を行なう「緑と生きものプロジェクト(仮)」に分かれ、それぞれ活動を開始しました。

2011年は、国連が定めた「国際森林年 (the International Year of Forests)」です。国際森林年は、世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的としています。今年はさまざまな森林や林業再生の取り組みが期待されています。

緑と生きものプロジェクト(仮)では、5月に行われた第1回会議で「森で遊ぼう！」などの森林体験講座や里山の生きもの調査を行うことになりました。その第一弾が、6月19日(日)に仙台市青葉区葛岡にある仁田谷地の森での森づくり体験講座です。この講座は「せんだい・市民の森を創る会」が主催、MELONが共催として実施し、下草狩り体験やミニコンサートを行います。この講座に仙台市青葉区の避難所から親子を中心にバスで招待することにしました。活動を活かしながら、少しでも私たちにできることを提供したい、森の中でゆっくりと過ごすことで少しでも安らいでほしいという思いからです。

このほかにも、間伐材の活用の可能性を議論したり、里山再生のためには何ができるのかなどを話し合っています。興味のある方はぜひMELON事務局までお問い合わせください。



2011・国際森林年

部会・プロジェクト名の変更

2011年度から、名称の変更や新たな部会の立ち上げがありました。これからよろしくお願いします！

旧「緑・食部会」 ⇨ 食と緑の活動を、それぞれ「食部会」と「みやぎ里山応援団(部会)」の独立した部会として活動を始めました。

旧「企業&環境プロジェクト」 ⇨ 名称変更し、「企業交流部会」となりました。企業同士や市民が連携した企業の環境活動の推進を目指します。

旧「ごみ減量プロジェクト」 ⇨ 名称変更し、「4R推進部会」となりました。4Rとは、リデュース・リユース・リサイクルの3つに、不要なものを買わない。もらわないのリフューズを加えた4Rでごみの減量を目指します。

参加無料
入場自由

第16回 MELON 会員と市民のつどい 「宮城のエコはどこに向かう？ ～ふみ出そう 次の一歩を～」

日時：6月25日（土）13:00～16:30
場所：せんだいメディアテーク1階オープンスクエア
内容：

- ステージエリア
 - ①13:30～ MELON 維持会員総会
 - ②14:45～ パネルディスカッション
テーマ「宮城のエコはどこに向かう？」
コーディネーター：長谷川公一理事長
パネリスト：呉地正行氏（日本雁を保護する会会長）
菊地重雄氏（川崎町の資源を活かす会理事長）
佐々木陽悦氏（みちのく田んぼの学校）
後藤一磨氏（みやぎ生協COOP緑の基金運営委員）

- ブースエリア
かわいいアクリルたわし作り／エッグキャンドルに絵を描こう！／ボトルキャップでプチピンクッション作り／環境グッズの紹介 など
気軽に来て楽しめるブースがいろいろあります。

当日ボランティアスタッフも募集中
お問い合わせはMELON事務局まで

投稿募集

94号テーマ

「震災時に役立ったエコなもの」

3.11以後に役立ったエコなものやエコなコツなどを教えてください。みんなで紹介し合い、災害に備えて参考にしましょう。

投稿方法

- 投稿文とペンネームを明記し、メール・FAX・ハガキ等にてMELONへお寄せください。

ケータイからの投稿はQRコードからご覧いただくことができます。



- 締め切り：7月11日（月）

編集後記

- いつでも蛇口から水が出てくるありがたみを痛感。意識して節水してみると、今までこんなに無駄遣いしてたのかと気付きました。（岸）
- 社会人になって2ヶ月がたとうとしています。休日はいお家から出ることなく過ごしてしまうので、新しく運動を始めたいです。（小山田）
- 震災のあと、今まで以上に「今を大事に生きよう」と思っています。別に世の役に立とうということではなく、仕事も遊びも支援活動も全てにおいて悔いのないようにしたいという自分のエゴです。（小林）
- 震災時、田舎や農家は強い！ 野菜は家に、水は井戸、燃料もストックがあり、困ったら近所に聞く。防災に強い町づくりって、実は田舎の風景なんじゃないだろうか…（廣重）

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。
※会員以外の方も参加できます。

6/9（木）	4R 推進部会例会
6/17（金）	MELON cafe 企画部例会
6/18（土）	第1回 MELON 生ごみ堆肥化&ベランダ園芸講座 「目指せ！緑のカーテン」 MELON cafe プチ講座 「あると便利♪ リメイクキャンドル作り☆」
6/21（火）	食部会例会
6/25（土）	MELON 会員と市民のつどい 「宮城のエコはどこに向かう？ ～ふみ出そう 次の一歩を～」
7/2（土）	第2回 MELON 環境市民講座 「田んぼの学校 ～田んぼの生きものに触れてみよう～」
7/3（日）	水部会例会
7/9（土）	MELON cafe プチ講座 「保冷剤でひんやり♪ ハンドメイドスカーフ」
7/15（金）	自然エネルギー等普及プロジェクト例会
7/21（木）	第3回 MELON 環境市民講座 「親子でエコ・クッキング」
7/23（土）	まちなか eco マルシェ出展
7/28（木）	4R 推進部会例会
7/31（日）	「めざせ☆ベガルタ仙台エコサポーター!! ～2011～」

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

会員状況

1,013名

法人 99

任意団体 17

個人 897

2011年3月31日現在

ボランティアポイントカードをご活用ください

部会・プロジェクトの例会、イベントにボランティア参加する際にボランティアポイントカードをお持ちください。1回の参加で1スタンプを捺印します。5つ貯まるとMELON 協力商品券（1,000円分）と交換できます。カードを紛失した方は事務局までご連絡いただければ再発行いたします。



MELON 協力商品券を利用しましょう。

「MELON 協力商品券」を積極的にご利用ください。利用額の一部がMELON に寄附され、皆さんの日頃のお買い物行動から環境を守る活動に役立つ仕組みが作られています。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。

発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/

